

第20回歯科学術・運動交流集会 演題登録一覧表

県連	事業所名	演者	職種	テーマ分類	分科会	ポスターセッション	演題名	内容
1	北海道 ふしこ歯科	上松 恵美	事務	V	○		無料・低額診療の取り組み	今年1月より北海道の5件ある歯科事業所のうち、3件の歯科診療所で無料・低額診療を実施する事ができました。北海道におけるその実態と利用状況を報告します。
2	北海道 ふしこ歯科	吉村 弓子	歯科衛生士	II	○		特養における口腔機能向上の取り組み～医科、歯科、介護連携～	特養にて、2年前より口腔機能向上支援の取り組みを他職種と共に実行してきました。目標を同じくした専門職とのチーム連携は予想以上に双方の意識の向上、スキルアップに繋がりました。同時に施設内の介護職員の方々に対して当初からアンケートによる意識調査も行っています。活動内容と調査報告を合わせて報告いたします。
3	北海道 もみじ台歯科診療所	市村 寛美	歯科衛生士	II	○		中断調査(65歳以上)の取り組みと評価	受診率が低下する高齢期の実態を把握するため、65歳以上に対象をしぼり、中断理由や、歯科要求に対するアンケート調査に取り組んだ内容を報告します。
4	岩手 川久保病院歯科	佃 知春	歯科衛生士	II	○		歯科往診での口腔ケアの取り組み～過程と現時点での報告～	現在当院では、歯科医科連携の歯科往診活動を開始しております。 ここではH22.4月～H24.8月までの約2年間の口腔ケアの取り組みと過程を3症例を挙げて、報告させていただきます。
5	宮城 古川民主病院歯科クリニック	河内 満彦	歯科医師	IV	○		東日本大震災からの復興－宮城厚生協会歯科事業部の場合－	宮城厚生協会古川民主病院歯科クリニックと長町病院附属クリニック歯科は、東日本大震災により被害を受けた。特に長町歯科は、建物が損壊し、廃院を余儀なくされた。その後の長町歯科復活までの道のりについて述べ、全国の民医連歯科より賜った支援に対する感謝の意を伝えたい。
6	宮城 松島海岸診療所歯科	吉田 由香	歯科衛生士	IV	○		震災後の取り組みと展望について(仮題)	①震災後の経営立て直しに向け、診療現場の取り組みについて ②介護施設建設後に歯科の移設が予定されているので、3月までに間に合えば計画の概要を紹介します。
7	群馬 協立歯科クリニック	萱間 晓彦	歯科医師	III	○		Ca拮抗薬服用による歯肉増殖症患者の歯周治療	カルシウム拮抗薬の影響と思われる、歯肉増殖症の腫脹がみられる重度歯周病患者に歯周治療を行い、メインテナンスに導入した症例の紹介。カルシウム拮抗薬を休薬することなく歯周基本治療のみで増殖症の腫脹は改善した。
8	群馬 利根歯科診療所	金子 貴紀	歯科医師	III	○		糖尿病患者の歯周治療への取り組みと成果	利根中央病院における糖尿病教室の紹介ならびに実際に糖尿病を有する患者への歯周治療に対するモチベートとその治療成果について症例発表する。
9	群馬 利根歯科診療所	高橋 佐知子	歯科衛生士	II	○		摂機能療法の取り組み	当院では、今年度から新たな取り組みとして摂機能療法を始めた。開始するまでの研修内容と症例について発表する。
10	埼玉 生協歯科	荒木 拓道	歯科医師	II			私たちはいかに往診を拡大してきたか。	①往診拡大の背景②医科歯科連携③課題と展望
11	埼玉 生協歯科	鳥海 泉治	歯科医師	IV	○		歯科医師政策と人づくり	①歯科医師政策策定の背景 ②歯科医師政策の実践(研修) ③変化と特徴 ④歯科医師政策から中期事業計画への展望 ⑤まとめ
12	埼玉 生協歯科	小谷野 徹	歯科技工士	IV			新人技工士を受け入れて～到達と課題～	1、歯科技工士増員目的と到達 ①外注比率を減らす。 ②診療室対応の円滑化や技術拡大を図る。 ③再製率・長時間調整を減らす。 2、研修内容と今後の課題について報告する。
13	埼玉 生協歯科	山田 俊彦	事務				経営改善3ヵ年計画の取組みから	①「E群」から待ったなしの状況を自覚 ②「経営改善3ヵ年計画」策定と取組み ③「現場・法人・コンサルの三位一体」の取組み ④経営改善の経過 ⑤教訓と今後の課題
14	埼玉 生協歯科	佐藤 久美	事務	IV			経営改善「見える化」に取り組んで	生協歯科は2009年から「経営改善3ヵ年計画」に取り組んだ。経営改善に向け事務としての役割を意識し取り組んだ事を報告する。 ①医師別収入目標と到達 ②新患目標と到達 ③定期検診・中断患者対策 ④その他
15	山梨 共立歯科センター	梅北 和一	歯科医師	III	○		ビスフォスナート製剤(ゾメタ)による下顎骨骨髓炎を経験して	乳癌の転位骨転移に対しゾメタを投与された患者で初期症状は口内炎と思われたものが骨髓炎となり治癒まで3ヶ月を要した。治療の内容について報告します。
16	山梨 共立歯科センター	守家 美生	歯科衛生士	V	○		読んでますか?「民医連新聞」～新聞から全国に学ぼう～	私は、長年、「民医連新聞」のモニターをしている中で新聞が届くと必ず目を通しています。編集部の新聞づくりへの思いを感じると共に私たちの医療活動のヒントとなる記事が満載であると思っています。職場に目をやると新聞は読まずに捨てられていることもあります。それを責めるのではなく職員の新聞に対しての思い、意見を聞き今後新聞が職員の中に浸透し新聞から全国に学ぶ気持ちで職場内に"読む"環境が出来たら嬉しいなと言う思いを伝えたい。また今までの新聞記事の中から私の一押し記事も紹介したい。

第20回歯科学術・運動交流集会 演題登録一覧表

県連	事業所名	演者	職種	テーマ分類	分科会	ポスター発表	演題名	内容
17	山梨 共立歯科センター	保坂 由里子	歯科衛生士	V	○		共立歯科センターにおける歯みがきセミプロ委員会の6年間の取り組み	共立歯科センターでは、2006年に歯みがきセミプロプロジェクトを立ち上げ、2007年に第1期セミプロ講座を開催しました。2011年度は第6期生が卒業し、卒業生は総勢27名になっています。今年、立ち上げから7年目を迎え、今までの6年間を振り返るとともに現在の状況や課題、今後について考察していきたいです。
18	山梨 共立歯科センター	車谷 純平	事務	V	○		精神疾患を抱えている無低患者へのかかわりについて	平成22年8月から無料低額診療事業を開始しましたが、対象者の中で、統合失調症を持つ患者さんがいます。無低対象をきっかけに生活保護に至り、一定の生活の安定にはつながりましたが、本人のプライドの問題があり、精神的な安定にはつながっていません。このような患者さんに対し、治療が終わったら「はいおしまい」ではなく、医師の事として何が出来るのか、何が出来ないのかを考えてみました。
19	山梨 武川歯科診療所	近藤 裕実子	歯科衛生士		○		障碍者支援せつでの往診・口腔ケアを見直そう	武川歯科診療所での施設往診の取り組み発表
20	山梨 巨摩共立病院歯科	保坂 麻実	歯科衛生士	IV	○		高校生1日歯科衛生士体験の取り組みについて	歯科衛生士学生対策委員会では、2011年度より、後継者対策・歯科衛生士の仕事を知り医師連の歯科医療を体験する事で、高校生の進路決定に役立ててほしいという思いから高校生1日歯科衛生士体験を実施しています。今回は、昨年度、今年度の取り組みの報告とこれからに向けた課題などを発表できれば良いと考えています。
21	東京 みさと健和歯科	召田 雅巳	歯科医師	III	○		研修医報告(難症例に向き合って)	昨年入職し、研修医として様々な症例を経験してきた。その中で出会った困難な症例の治療経過について報告する。
22	東京 生協王子歯科	野口 謙吾	歯科医師	V	○		原水禁世界大会に参加して	2012年8月に広島で開催された原水禁世界大会に初めて参加し核兵器の恐ろしさと原発を含む核による被害を2度と起こさない事の重要性、平和の尊さを痛感しましたのでこの経験を報告いたします。
23	東京 小豆沢歯科	中川 薫	歯科医師	III	○		萌出困難歯の開窓術とその後の矯正専門医との連携について	萌出困難歯は開窓術後、牽引にて定位に誘導するのが通法ですが、本症例は牽引せずに誘導できましたので、紹介いたします。
24	東京 大田歯科	吉田 心一	歯科医師	II		○	終末期医療における嚥下への取り組み	
25	東京 大田歯科		歯科衛生士	V	○		小児教室(未定)	
26	東京 代々木歯科	柳田 健二	歯科医師	V	○		代々木歯科に通院する生保患者の状況(仮題)	居住者が年々減少している地にあって、生保の通院患者さんがどのような背景を持って通われているのか状況を報告したい。
27	東京 川島診療所歯科	永江 陽	事務	II	○		「川島“食前体操”」から「小顎エクササイズ」DVD制作へ	私達川島診療科が作り上げた、ピアノ生伴奏つき「川島“食前体操”」は、普及のためのDVD作りをもくろむもなしえなかった。そこで、「小顎エクササイズ」と改名し、再編集することとしたところ、これを知った東京西部保険生協から早速共同制作の申し出を頂きDVD作りが走りだした。口腔機能が低下する前の若い世代に、口腔機能維持のエクササイズを定着させるべく製作した「小顎エクササイズ」DVDを、制作裏話とともにご紹介します。
28	東京 相互歯科	相曾 訓子	歯科衛生士	II	○		外来患者の療養支援のための歯科衛生士による家庭訪問(Home Visiting DH)の取り組みについて	22相互歯科では療養指導を行うにあたり、物忘れや認知症、知的障害など本人からの聞き取り困難な患者に対し家庭訪問を行ってきました。この家庭訪問により療養が前進した症例を報告します。
29	東京 相互歯科	相曾 訓子	歯科衛生士	IV	○		相互歯科のDH研修・育成を振り返って見えた、今後のDH教育への問題提起	新人獲得の失敗、30代以降の中堅DH未定着、役職配置の困難などから問題点を振り返り、情勢やDHの社会的役割(変遷)などと比較分析し研修のあり方を考察した。
30	東京 相互歯科	中村 隆之	歯科技工士	III	○		残業720時間削減した義歯製作	以前の相互歯科技工室は規則の規定性が緩やかな個人の主觀に頼った技術、技能、働き方も曖昧、残業の発生原因も不明。机上の技工物を片づける事を主に、材料、道具も個人に任せられ集団としての技術構築も無い状態であった。毎週水曜日診療終了後に部会を設定し、技工室の働き方の振り返りを行い、課題を整理し、科学の方法を取り入れ、規則を整備し、科学的、客観的な作業行程を追求した。相互歯科の保険義歯100%内製に取組み、チーム技工という概念をとりいれ、作業時間の大幅な削減に成功した。
31	東京 地域口腔保健センター	田口 彩子	歯科医師	II		○	診療所の全在宅往診患者への口腔状況スクリーニング調査の結果・報告	歯科衛生士が医科の在宅往診に同行し、在宅往診患者の口腔内の実態把握を行った。医科歯科連携の強化と同一法人内で歯科未受診の患者を受診につなぐ事が出来た。また医療関係者の口腔内や摂食・嚥下の意識向上、歯科衛生士が医科の在宅医療を学ぶ機会となった。歯科衛生士のスクリーニング活動の重要性を報告したい。
32	東京 地域口腔保健センター	黒羽 由加里	歯科衛生士	II		○	FIMIに基づく口腔ケア自立度と口腔ケア不足実介護量の調査	2012年7月に当センターが訪問している在宅、病院、施設の全患者の口腔ケア自立度を調べ修正FIMIに基づき個別不足介護量について検討を行った。結果、往診患者においては在宅、病院に限らず、口腔ケアにおいて何らかの支援、介助が不足している事が分かった。また、ヘルパーを利用しているか否かは口腔ケアの向上に寄与しておらず、口腔ケアは家族の介護に頼らざるを得ないことがわかった。
33	東京 けんせい歯科	園田 真里	歯科医師	I		○	院所の安全管理と患者満足度向上の取り組みについて	けんせい歯科ではこの2年間、チームSTEPPEの学習会を行い、臨床研修や実際の診療現場でより安全な医療を提供すべく意識改革を行ってきた。患者さんとのトラブルが説明不足が原因となっていることが多く、治療計画の患者手渡しや、訪問診療での保険請求がどうなっているかなど患者さんにわかりやすくするなど改善を行ってきている。
34	東京 みその歯科	小石 良和	歯科医師	III	○		歯科医師と歯科技工士の共同により咬合の改善及び再構成を行なった症例	歯科医師から歯科技工士への情報は、デジタル画像や指示書なども活用されはいるが、主に模型によってなされており、足りない部分は歯科技工士の経験や想像力に補われていることが多い状態である。今回、院内に常駐している歯科技工士の積極的な診療への関わりにより、可撤性義歯を用い、咬合のリハビリテーションを行い、咬合の改善および再構成を行い、機能性の向上を図った症例について報告する。

第20回歯科学術・運動交流集会 演題登録一覧表

県連	事業所名	演者	職種	テーマ分類	分科会	ポスターセッション	演題名	内容
35	東京 みその歯科	杉山 奈津希	歯科衛生士	III	○		F-OPE症例をとおしての若手歯科衛生士育成	5年目歯科衛生士の力量向上の為の取り組みとして、院所歯科衛生士部としてF-OPE症例の学習を通してのP処置全般に関する学習と向上を計画した。取り組みと学習内容を報告する。
36	神奈川 汐田総合病院	安藤 大	歯科医師	III	○		下顎無歯顎に対しインプラントオーバーデンチャーにて補綴を行った症例の検討	高度に骨吸収した無歯顎頸堤に対して、インプラントオーバーデンチャーは有用な補綴手段の一つである。しかし、下顎無歯顎に於けるインプラント埋入は骨吸収により解剖学的ランドマークの位置が異なるため下顎管・オトガイ孔・及び舌動脈を十分意識する必要がある。今回、下顎無歯顎へインプラント埋入を行った症例を通じ、その解剖学的注意点について検討し報告する。
37	神奈川 うしおだ診療所	石原 忠芳	歯科医師	III	○		どうする？どうなる？インプラントメインテナンス	年々増えるインプラント治療。埋入したインプラントが長くその口腔内で機能するために必要なことは何か。他院で埋入されたインプラントをどう管理するか。介護、訪問が必要になった際どう関わっていくか。多くの課題があるインプラント、そのメインテナンスの「どうする？」を皆さんと考えたいと思います。
38	石川 城北歯科	浦井 一樹	歯科医師	IV	○		城北歯科における経営改善のとりくみ	2011年度の経営は城北歯科開設以来(2004年開設)、初の黒字で終えることができた。昨年実績と比べると、10,000千円近い大幅な改善となつた。2011年度はクオリティー目標に「経営の黒字化」を大きく掲げ、全職員が事業所運営に参画する仕組みとして、全職員に委員会を担っていただきたい。友の会会員増やし、年間205名達成(目標100名)、友の会会員年間20件達成(目標20件)、2008年以来の原水禁世界大会代表派遣など、個々の委員の目標も達成していく中で、組織として成長し、結果として経営改善となつた。
39	福井 光陽生協歯科診療所	渡部 啓行	事務	V	○		資格証の女性、保険証取得とその後。	資格証を持って受診にきた人がいらっしゃいましたが、それが資格証ということも知りませんでした。他の病気も患っており、その治療にも通えない状況でした。役所との交渉の結果、保険証を取得することができました。その経緯とその後についてご報告します。
40	福井 たけふ生協歯科	岡本 健太	歯科技工士	IV	○		自費治療の価格、保障期間の設定について	自費治療での補綴物の保障期間内の破損、破折は経営に少なからず影響します。たけふ生協歯科での補綴の種類別の患者価格及び保証期間の設定経緯とともに、院所持ち出しの傾向についてもまとめます。同時に他の院所での設定についても意見を聞かせていただき、参考にさせていただきたいと思います。
41	福井 さかい生協歯科	松山 明里	歯科衛生士	V	○		初めてのセミプロ講座を実施して	昨年3月にさかい歯科開設し、10月に初めての歯磨きセミプロ講座を開催し、8名の方が参加されました。今年度も10月に第2回講座を開催し、セミプロさんを増やしていく。積極的に地域予防活動に参加して下さるセミプロさんを養成していくことを目的として、開催していきます。その経過と課題を報告します。
42	愛知 みなと歯科診療所	二村 裕也	歯科医師		○		インプラントの症例報告(仮)	GBRを含めたインプラント症例の報告をします。
43	愛知 北生協歯科	毛利 大介	歯科医師	III		○	E-MAXの症例	E-MAXは、自費補綴として有効であるか、ブリッジ等で破損したケースがある。当歯科の症例をもとに報告したい
44	愛知 北生協歯科・あじま診療所歯科	小池 由里	歯科衛生士	I	○		模擬患者の会とのセッション「患者満足度向上の取組み」	北医療生協では、「模擬患者の会」が活発に活動しており、各事業所、部署で患者満足度向上の取組みとしてセッションを行っています。今回歯科で行いましたので報告します。
45	京都 あすかい診療所歯科	能登 大二郎	歯科技工士	III	○		e-max(仮)	
46	京都 待鳳診療所歯科	初田 美佳	歯科衛生士	III	○		インプラントのメインテナンス	
47	京都 待鳳診療所歯科	坂牧 結	歯科衛生士	II	○		老人保健施設おおみや葵の郷における口腔ケア	
48	京都 九条診療所歯科	板津	歯科医師	III	○		露出した根面における知覚過敏を歯周外科で改善した一症例	
49	京都 九条診療所歯科	吉田 圭佑	歯科技工士	III	○		歯冠修復物の色調について(仮)	
50	京都 九条診療所歯科	佐野 雅世	事務	IV	○		民医連統一会計基準の具体化～公認会計士の調査を受けて～	
51	京都 仁和診療所歯科	丹羽 千幸	歯科衛生士	I	○		感染について(仮)	
52	京都 仁和診療所歯科	立石	事務	IV	○		京都民医連歯科の活動について	
53	京都 あさくら診療所歯科	田村 真希	歯科衛生士	V	○		地との歯の健康づくり	
54	大阪 淡路歯科診療所	米田 香織	歯科衛生士	II	○		歯科衛生士の立場から、食の大切さを伝える取り組み	子どものうちから食に対して関心を持ってもらい、健康な大人に導く為の取り組みを報告します。
55	大阪 淡路歯科診療所	中川 ひろみ	事務			○	歯科開設20周年・皮膚科開設25周年記念共同開催健康まつりの取り組みについて	同一建物にある歯科・皮膚科が節目の年を迎えた2012年11月3日、事業所初となる2000人規模の健康まつりを開催することになりました。その取り組みを報告します。

第20回歯科学術・運動交流集会 演題登録一覧表

県連	事業所名	演者	職種	テーマ分類	分科会	ポスターセッション	演題名	内容
56	大阪 耳原歯科診療所	與那嶺 三重	歯科衛生士	I	○		耳原歯科での医療安全体制、医療事故・ヒヤリハットのまとめと改善への取り組み	2005年のISOの認証取得、2007年の医療法の改定に伴い、耳原歯科での医療安全体制への取り組みの報告と、この間の医療事故・ヒヤリハットの報告のまとめと改善への取り組みを報告します。
57	大阪 耳原歯科診療所			V	○		耳原歯科で出会った無料低額診療事例 無保険から抜け出せない相談者の背景にあるもの	2011年4月に大阪民医連で初めての無低診を開始して1年半が経過しました。この間の事例のいくつかを紹介とともに、面談の中から見えてきた矛盾について報告します。
58	大阪 わかば歯科	楢田 裕士	事務	IV	○		わかば歯科の経営改善について(全国の現地検討会も受けた)	わかば歯科(旧大正民主歯科診療所)は赤字が続いている事業所でした。職場内の意思疎通もあまりよくなく、管理運営の弱さもあった。施設の老朽化からリニューアルの話も出てはいるが、一歩踏み出せない状況だった。まずは経営の立て直し、共同組織の方々と力を合わせ、全日本民医連歯科の現地検討会を受け改善傾向に向かっています。リニューアルはもう少し先ですが、途中経過を報告します。
59	大阪 コープおおさか病院歯科	松井 佐千子	歯科衛生士		○		当院における「歯医者さん探検隊」の取り組み	平成21年から小学生を対象に「歯医者さん探検隊」を行ってきました。21年、22年度は学童を共同で行いましたが、23年、24年度は独自で伝をし開催しましたので、その内容について発表します。
60	大阪 田島診療所歯科	戸井 逸美	歯科医師	V	○		学校歯科検診後の治療調査から見えた格差社会への考察	TVのニュース番組をきっかけに社保協から提案を受け子どもの歯科治療に関連した調査を行った。養護教諭や学校歯科医会との懇談を含め調査の結果から見えた社会問題を歯科医師として考察を加えたい。
61	大阪 田島診療所歯科	多田 和彦	歯科医師		○		患者さんの要望に保険の範囲でどう応えるか	現在、インプラント治療の安全性が確立され、欠損補綴に対する治療方法の幅は確実に拡がってきている。しかし、保険で、という限定をかけられると、どのように患者さんの要望に応えられるかを検討してみる。
62	大阪 せいきょう三丁目歯科	野川 裕司	歯科医師	III	○		臨床において根管治療でのビタベックスの有用性について	
63	大阪 生協森の宮歯科	井上 昌之	歯科医師	III	○		歯根膜の機能を生かした臨床	歯根膜の機能を生かした臨床例をいくつか紹介し、歯根膜の重要性を再確認する
64	大阪 生協森の宮歯科	野口 久美子	歯科衛生士	III	○		障害者歯科での取り組み	障害者歯科での取り組みと、さらなる医療技術の向上
65	兵庫 協同歯科	足立 淳	歯科医師	II			障害者に対する訪問歯科診療	訪問診療を行うなかで、障害をもつ患者に遭遇することも少なくない。全身疾患への理解を深め、トラブルの予防、治療時の突然的な発作に対処できる知識をもつことが重要であると思われる。
66	兵庫 協同歯科	松井 正美	歯科衛生士	II	○		NSTの取り組み	NSTの取り組みについて…NSTの取り組まれるまでの経過と、衛生士の関わり 等について報告します。
67	兵庫 協同歯科	宮野 由佳子	事務	IV	○		思いが伝わることのはかり方～患者分析に学ぶ目標づくりと実践～	ここ数年、新患動向を中心に、何種類かの統計を蓄積してきた。複数の視点での統計から、ある程度の協同歯科の地域の中での医療活動を通じた影響力が見えてくる。患者分析をもとに、データに裏付けられた説得力のある目標づくりに役立てる。「誰もがずっとかかる歯科」を方針の柱にして取り組んできた、キャンセル対策や組合員利用率向上の実践もふまえて、どうしたら実践の成果や効果がはかれるかの考察を報告する。
68	兵庫 生協なでしこ歯科	稻岡 いずみ	歯科衛生士	III	○		定期健診による齲歯予防効果(第一大臼歯から読む)	小児歯科における日常臨床の大きな目的の一つに、こども達の健全な永久歯列の育成があります。なかでも齲歯罹患率の最も高い第一大臼歯(6歳臼歯)の齲歯予防がカギと思われます。しかしながら実際は一般に第一大臼歯の齲歯罹患率は高く、萌出途上で罹患する例も多くみられます。今回は当院で行っている定期健診の予防効果を、第一大臼歯の齲歯罹患率から考察したいと思います。同時に当小児歯科の定期健診の有効性、今後の参考ポイントを発表します。
69	兵庫 戸ノ内歯科診療所	中村 典子	歯科衛生士	III	○		歯周病治療によって脂肪肝が改善された一例	歯周病治療を主訴し来院された患者様より治療を通して学んだ事柄をまとめ報告する。全身疾患に非アルコール性の脂肪肝がある患者様の一例、中等度の歯周病で初期治療を経過し現在はメンテナンスにて通院されているが初診時よりも肝臓の数値が改善し、安定している。
70	兵庫 生協歯科	富澤 洪基	歯科医師	IV	○		生協歯科におけるISO9001を用いた職場づくり	当事業所は、リニューアル移転後4年経過し、この間患者件数、剩余ともに着実に上昇し実績を挙げた。これらは、ISO9001を用いた職場づくりが功を奏したことが背景にある。本発表ではこのISOの運用の経過を報告とともに、他事業所でも応用可能な事例を挙げ、供覧する。
71	兵庫 生協歯科	山本 和江	歯科衛生士		○		歯科衛生士が行う口腔機能向上～他職種との連携について～	往診・DH訪問で口腔ケアを行う中で、摂食嚥下障害の患者さんに対する取り組みにおいて、他職種(特にヘルパー・ST等)との連携を効果的に行った症例につき、今後も活用が可能であると思われるノウハウを供覧する。
72	兵庫 共立歯科	福田 朋樹	歯科医師	III	○		共立歯科における歯科インプラント治療の現状	歯科インプラント治療は、その安全性や生体適合性、臨床的には高い成功率、並びに予知性について多くの研究報告がなされ、欠損補綴のfirst choiceとなる症例も増えている。当院でも、以前からインプラント治療を導入し、患者のニーズに答えるべく治療をすすめてきた。歯周、矯正科の歯科医師や歯科技工士並びに歯科衛生士と綿密なコミュニケーションをとりながら、高い機能性と審美性を考慮してインプラント治療を行い、その治療効果を永続できるよう、チームアプローチをすすめていきたい。
73	兵庫 共立歯科	小村 都	歯科衛生士	II	○		病棟口腔ケアを開始して1年間の報告	2011年7月より同法人共立病院の病棟へDHIによる口腔ケアを週2回行なうようになりました。その報告をさせていただきます。
74	鳥取 せいきょう歯科クリニック	中田 幸雄	歯科医師	III	○		交通事故による顎骨粉碎骨折を来たした患者の要求に最大限応えるインプラントによる咬合審美性の回復	交通事故により、上下顎右側の粉碎骨折を来たし、義歯が不可避と考えられた症例に、患者の要求と院所の技術水準のすりあわせを何度も行いながら、最終的に義歯を回避しインプラントによる咬合と審美性の回復を図った。患者の職業(看護師)がら外でできる最大の規模の外科処置に限られたこと、会話、審美性をある程度維持する必要性、費用が高額にのぼるなどのハードルを院所の総力で乗り越えて、患者の満足を達成するため苦労した症例を報告する。

第20回歯科学術・運動交流集会 演題登録一覧表

県連	事業所名	演者	職種	テーマ分類	分科会	ポスターセッション	演題名	内容
75	鳥取 せいきょう歯科クリニック	小谷 弘美	歯科衛生士			○	県立歯科衛生専門学校の臨床実習施設になつて一年間のまとめと課題	今年度、鳥取県立歯科衛生専門学校の実習施設に選定され、実習生を受け入れました。初めてで戸惑うことが多いですが、将来的な後継者養成のあり方、職員の成長など得るものも多い経験でした。全国的にも歯科医師会が後援している歯科衛生士学校の実習先に選定されることは、まれなことと思われますので、その経験を報告したいと思います。
76	島根 塩治歯科診療所	多々納 加代	歯科衛生士	II	○		精神的に不安定で反対咬合の患者様と向き合つて	現病歴:不安障害にて通院・服薬中 主訴:下顎前歯にBrを入れてから喋りにくい。咬み合わせもおかしい患者様の要求にをきき、一緒に悩みながら治療を行つた経過を報告する。
77	岡山 阿新診療所歯科	林田 健太郎	歯科医師	IV	○		歯科医師研修要綱の有用性および現状との対比	倉敷医療生協には研修要項が存在し、初期(2、3年)、中期(3~10年)、後期(10年以降)に分けて医療活動、経営、管理運営、教育指導等多岐にわたり一般目標、行動目標が規定されている。自分自身10年目で中期後期の中間であり、現状と要項の比較を通して検討した。それにより要項は有益であり要項を元に研鑽を積むことは非常に重要であり、成長を組合員に還元できる結論を得た。
78	岡山 阿新診療所歯科	牧野 泰久	歯科技工士	V	○		無力を感じる署名活動…でも	24年前成立した消費税。反対の声は大きかったように思うが成立してしまった。そして今消費税増税を柱とする関連法が可決成立してしまった。これまでの消費税に反対する署名とは何だったのか。何もしなければ代わる確立0%というが、燃え盛る炎の前にハチドリの水一滴に何の意味も無い。社会を根底からくつがえす大きな力が欲しい。
79	岡山 阿新診療所歯科	石原 安弓美	歯科衛生士	III	○		インプラントと金属アレルギー	当歯科でインプラント治療に携わるようになり長期間かけて全顎治療に取り組む患者さんとであった。その患者さんは金属アレルギーであり喫煙者である。金属アレルギーの症状である掌蹠膿ほう症がみられる。治療をはじめる前にパッチテストを行なった。患者要求に応えるためファイバーコア、オールセラミック、emax、インプラントに置きかえることとなつた。患者さんの情報や治療経過を十分に理解し、長期治療への対応へ繋げる。
80	岡山 阿新診療所歯科	森脇 千恵	歯科衛生士	II	○		障害者支援施設での口腔ケアについて	障害者支援施設「大佐荘」への往診・口腔ケアには約20年という歴史があり、医療生協との結びつきが強くなっている。3年前から口腔ケアに同行し、昨年からメインで口腔ケアをしていくうちに、患者からの要求にケアを通して応えられたこと、新たに気づいたことを3症例発表する。
81	岡山 コーブくらしき診療所歯科	滝本 博	歯科医師		○		インプラント10年以上経過症例のX線画像的予後調査	開設13年目を迎えた当歯科のインプラント10年生存率は99%であった。しかし、X線的予後としては様々な課題が浮上した。CTも含めて報告する
82	岡山 コーブくらしき診療所歯科	横山 泰平	歯科医師		○		慢性歯周炎の糖尿病患者の全顎補綴症例	糖尿病と歯周病の双方の関連が指摘されて久しい。全身疾患として糖尿病を持ち、咬合崩壊を来たした歯周炎患者の全顎治療の経過を報告するとともに、歯周炎と糖尿病の関連について検討したい。
83	岡山 コーブくらしき診療所歯科	井上 洋二	歯科技工士		○		e-maxの取り組み ステイニング・レアリングテクニック	e-maxを取り組んで2年半になります。症例数もたくさん取り組んできましたが、今回はステイニング・レアリングテクニックについて報告します
84	岡山 水島歯科診療所	小崎 哲	歯科医師	III		○	インプラント維持オーバーデンチャー	水島歯科でおこなってきたインプラント維持オーバーデンチャーについて概説し、症例展示とロケーターアタッチメント義歯について報告する。
85	岡山 水島歯科診療所	佐々木 学	歯科医師	III	○		e. max ~トラブル症例からの考察~	水島歯科では、2010年3月よりe. maxを臨床導入しています。患者の「臼歯部に白くて強いものを入れたい」という要求に応え、症例は年々増加傾向にあります。その予後はおおむね良好ですが、症例数が増えいく中で、少数ではありますが破折などのトラブルとなつたケースがあります。今回、そのようなトラブルケースを通じて、オールセラミックの選択について再考しました。
86	岡山 水島歯科診療所	辻 重真	歯科医師	III	○		侵襲性歯肉炎の治療にエムドゲインRを使用した長期症例	若年者に発症した大きな骨欠損を伴う歯周炎に、エムドゲインRを併用して治療をおこない、約6年間メンテナンスをおこなつた症例について報告す
87	岡山 水島歯科診療所	秋山 峰男	歯科医師	III	○		インプラント GBRの臨床	骨量の不足する部位に骨を造成するにあたり、症例を通じて考察したい。
88	岡山 水島歯科診療所	田岡 大	歯科医師	II	○		脳梗塞後遺症の患者にPLPを装着した症例	脳梗塞後遺症による発音障害を呈した患者に対し、医科でのリハビリ、並びに歯科的対応としてPLP(軟口蓋挙上装置)を 総義歯に付与することにより発音障害の改善につながつた症例について報告します。
89	岡山 水島歯科診療所	近藤 謙二	歯科技工士	III	○		金属床義歯の制度管理を再考する	デンチャー技工を担当する立場から残存歯保護と咬合支持の保全を見据えた金属床義歯の適合について報告したいと思います。
90	岡山 水島歯科診療所	前田 邦彦	歯科技工士	III	○		ジルコニアゼノスターの使用について	e. maxを取り組んで3年目になりますが、すべての補綴をカバーすることはできません。ジルコニアゼノスターを使用して、e. maxの欠点を補い、それぞれの材料の良いところを生かし、問診、診断決定に生かされればよいと思います。
91	岡山 水島歯科診療所	吉井 幸治	歯科技工士	III	○		床用レジンの重合の工夫	床用レジンの重合には、多くの時間を有します。そこで、ケースに応じてレジンを選択。重合方法を工夫するなどして、時間短縮と作業効率の向上、及び適合精度が向上するよう工夫しました。
92	岡山 水島歯科診療所	岸本 久美子	歯科衛生士	II			脳出血の患者さんへの歯科治療と口腔ケア	患者は失語症等脳出血の後遺症があり、コミュニケーション困難な上に歯みがきに非協力的であったが、長い治療期間のなかで意識の変化がみられ、ブラークコントロールがレベルアップした経過を報告します。
93	岡山 水島歯科診療所	笹倉 未央	歯科衛生士	II	○		治療を通じて患者の心境の変化をみた症例	治療をすすめていくことでブラークコントロールの改善がみられた。少しづつ自信を回復したことで心境にも変化が生じた。結果、治療要求が広がり、補綴方針の変更までおこなつた症例について報告します。

第20回歯科学術・運動交流集会 演題登録一覧表

県連	事業所名	演者	職種	テーマ分類	分科会	ポスター発表	演題名	内容
94	岡山 玉島歯科診療所	岡 恒雄	歯科医師		○		歯周病診断におけるCBCT(コンピュームCT)の活用について	
95	岡山 玉島歯科診療所	柳根 薫	歯科技工士		○		咬合調整を少なくする為の模型調整について	
96	岡山 玉島歯科診療所	高羽 美幸	歯科衛生士		○		患者に寄り添うチームワーク歯周治療	
97	岡山 真備歯科診療所	三部 俊博	歯科医師	III	○		真備歯科での小児・学童に対する取り組み	新築移転を控え、小児・学童が増えると予想された真備歯科で、初めて小児を担当することになった。小児・学童にどう取り組むか、その対応と成果を報告する。
98	岡山 真備歯科診療所	近藤 むつみ	歯科衛生士	I	○		歯科治療不信の患者さんを担当して～患者さんの心に寄り添うとは？～	HIさん(男性・65才・鬱病)の治療を通して考えさせられたこと。 開業医での歯科不信から当院に来られ、Drの言葉がけや歯を残していくかという本人の思いから、歯周治療の中で少しずつ気持ちが変化し、自分の気持ちを表してくれるようになった経過を報告します。
99	岡山 児島歯科診療所	小坂 博美	歯科衛生士				定期的SPTで管理している広汎型慢性歯周炎の1症例	SPTは、患者のブラークコントロールをさぼーとして、良好な状態を長期間維持させるため歯科医療従事者が行なう定期的な治療で、再発予防、新たな疾患発症部位の早期発見および早期治療を行い重要なことである。
100	岡山 児島歯科診療所	神原 生味	歯科衛生士				口腔内崩壊患者とのかかりわり	2009年に全日本民医連より報告された「歯科酷書」を1度は目を通された事があると思います。今なお続く経済危機。状況は更に悪化し、貧困の問題は深刻化しています。経済的事情から、受診抑制がおこり、著しい口腔内の崩壊状態で受診した患者を担当し、症例を通して感じた事を報告します。 2009年に全日本民医連より報告された「歯科酷書」を1度は目を通された事があると思います。今なお続く経済危機。状況は更に悪化し、貧困の問題は深刻化しています。経済的事情から、受診抑制がおこり、著しい口腔内の崩壊状態で受診した患者を担当し、症例を通して感じた事を報告します。
101	岡山 高梁歯科診療所	根本 尚史	歯科医師	III	○		オーバーデンチャーの取り組みについて(仮)	オーバーデンチャーにおける、インプラントの喪失は、即デンチャーの不安定につながり、大きな問題となる。まず、インプラント周囲炎を発生させないことが大事である。それには、日常的なブラークコントロールとメンテにおけるネック磨きが重要であるが、高齢である事に加え、痛みを出す歯が少ない為、来院間隔があく傾向にある。メンテナンスシステムを改良する必要がある。
102	岡山 高梁歯科診療所	柳根 友美	歯科衛生士	III	○		重症ペリオ患者さんの長期治療とSPTへの導入について(仮)	高梁歯科では、H22度後半よりSPTを導入し、今年度より、高梁歯科SPTシステムを確立し、歯周病の生涯管理の一環として取り組んでいます。重症ペリオ患者さんの長期治療とSPTへ移行した症例を紹介します。
103	岡山 岡山協立病院歯科	伊藤 真午	歯科医師	III	○		骨増生後上顎洞炎を誘発した症例への対応	歯科医原性感染症への対策として、骨増生後上顎洞炎を誘発した症例を通して、反省点、学ばされたこと等を報告する予定である。
104	岡山 岡山協立病院歯科	小崎 弘貴	歯科医師	I		○	外科処置時の同意書への取り組み	当院では、H24年4月より、抜歯等の処置時に同意書にサインを頂くようにしています。開始から数か月が経ち、その取り組みの現状、また反省などについて発表する。
105	岡山 岡山協立病院歯科	藤原 雅代	歯科衛生士	II	○		これからの口腔ケア	口腔ケアの中にはリハビリが含まれており、今まででは器質的なものだけのケアでしたが、これからは機能的なものを考えていくことについての発表です。
106	岡山 岡山協立病院歯科	藤井 直子	歯科衛生士	II	○		病棟往診治療から学んだこと～医科歯科連携～	総合病院内にある歯科として、医科歯科連携を密に進めていくことは重要だと考えます。医科歯科連携の情報交換として「体調管理健康シート」を作成しましたのでその経過を発表します。
107	岡山 岡山協立病院歯科	岡崎 朋子	歯科衛生士	II	○		当院におけるインプラント患者様の傾向とメンテナンスについて	当院のインプラント患者様の傾向から見えるものと、私が関わったメンテナンスの実際と今後メンテナンスで目指すものを報告する。
108	岡山 岡山協立病院歯科	太田 賢一郎	事務	I		○	処方確認の徹底	処方関連のミスは重大事故につながりますが、処方忘れ、受付でのお薬の渡し忘れなど、お薬に関するミスが発生していました。その対策として「お薬カード」を作成、活用していますので、その効果について報告します。
109	広島 生協さえき病院歯科	迫田 幸子	歯科衛生士	II	○		往診患者さんへのいい歯の日の取り組み	11月8日の「いい歯の日」にちなんで、何か往診患者さんに喜んでもらえることはないか考えてみました。
110	広島 生協歯科ひろしま	星 正浩	歯科医師	III	○		歯科用CTによる根管の描出について	今回リニューアルにあたって歯科用CTを導入した、使用してみると根管形態を正確に把握でき、根管治療に非常に有益であると考えた。
111	広島 生協歯科ひろしま	杉原 こずえ	歯科衛生士	I	○		生協歯科ひろしまにおける滅菌消毒システム	歯科開設時に考えた診療における感染対策や工夫した事等を発表したいと思います
112	広島 生協歯科ひろしま	升岡 涼子	事務	IV	○		生協歯科ひろしまリニューアルの取り組み	リニューアルに向けて取り組んだ事、開設前後の変化等を報告
113	広島 コープ共立歯科			I		○	電子カルテ導入にあたって良かったこと、苦労したこと	昨年の夏から電子カルテの導入を準備し始めました。いくつかの業者にデモを行なってもらったり、他の民医連の歯科事業所の様子をうかがつたりしながら検討を進め、今年の8月から本稼働しています。その間の経過や導入後の良かった点・工夫が必要な点などを報告したいと思います。
114	広島 コープ共立歯科	三戸 雅史	事務	V		○	無料低額診療事業導入後、半年間の経過	この4月から広島医療生協法人全体で無料低額診療事業を開始し、実際に2人の方が制度を利用されています。この間の準備状況や導入後の経過など、他の事業所の参考になればと思います。
115	山口 生協歯科下関	山下 乃子	歯科衛生士	I	○		診療に口腔内カメラを用いて	日常の診療に口腔内カメラ(簡易型)を使用することによって、患者様へご自身の現状の口腔状態をしっかりと見て頂き、治療前・治療後の説明への理解と納得を得られています。今回は、当院にて、実際にしている様子を報告します。

第20回歯科学術・運動交流集会 演題登録一覧表

県連	事業所名	演者	職種	テーマ分類	分科会	ポスター発表	演題名	内容
116	徳島 健生歯科	吉田 雅彦	歯科医師	III	○		健生歯科におけるCGF(Concentrated Growth Factors)の臨床応用	当院ではH24年9月からメディヒュージを導入し、組織再生を加速する目的でCGF(Concentrated Growth Factor)を、硬・軟組織に応用している。以前にはPRP,PRGFといった濃縮血小板が用いられてきたが軟組織の治癒には有効であっても硬組織再生には効果が疑問視されてきた。当院で主に実施している ①上顎洞底挙上術(ソケットリフト・サイナスリフト)を併用したインプラント植立 ②GBR法との併用 ③エムドゲインなどの再生療法と併用した歯周外科手術 等について考察する
117	徳島 健生歯科	篠原	歯科衛生士	I		○	医療の安全性の追求・患者サービスの向上	・安全・安心の取り組みと医療事故への対応
118	徳島 健生歯科なると		歯科衛生士	V	○		「夏休み！歯科探検隊」に取り組んで	地域との結びつきを強める取り組みのひとつとして、小学生対象とした歯科体験「夏休み！歯科探検隊！」を開催。初めての企画でしたが、白衣を着て記念撮影、印象剤を使って動物模型作り、普段は入る機会のない技工室見学、マイ歯磨き粉作りなどを体験し、参加した子供たちからは「楽しかった、来年も参加したい」等の感想が寄せられました。
119	香川 生協へいわ歯科診療所	谷 かおり	歯科衛生士	II	○		病棟での口腔回診の取り組み	当院では2012年9月から隣接している高松平和病院の入院患者の医療サービス向上と歯科患者の利用者増を目的に、全入院患者を対象とした口腔回診を開始した。これまでの経過と今後の課題を報告します。
120	香川 コーポ歯科まるがめ	尾平野 将広	歯科医師	III	○		未定	テーマ分類については「III」で、演題内容は熟考中です。ご迷惑をお掛けしますが宜しくお願ひします。
121	香川 コーポ歯科まるがめ	長谷川 貴彦	事務	IV	○		当事業所における業務改善の取り組み(仮称)	この数年間、赤字が続き経営的に困難を抱えており全日本や地協よりも要対策院所(E群)に低迷しております。この状況からの浮上に向けた様々な課題がある中のひとつで「コーポ歯科まるがめ10の改革」として業務改善に取り組み中です。その内容について紹介し経過等についての発表したいと思います。
122	福岡 大手町病院付属歯科診療所	園田 聰	歯科医師	V		○	当院における無料低額診療に関する統計と分析	当院受診中もしくは受診歴のある無低額対象患者について、その受診率、治療経過、その他について一般患者と比較、分析し今後の診療の一助とすることを目的とする。
123	福岡 千代診療所歯科	諸富 彰彦	歯科医師	II	○		舌接触補助床を用い、嚥下障害が改善された2症例	昨今の社会の高齢化に伴い、脳血管障害が増加している。しかし、医療の高度化、救急体制により、脳血管障害に関わる救命処置のうち、後遺障害に対する早期のリハビリが可能となってきた。嚥下に関わる要素は、食形態、口腔内の歯牙の状況等、多因子が関わっており、多角的なアプローチが必要となる。今回、我々は脳血管障害後に生じた嚥下障害に対して、リハビリ科と連携を行い舌接触補助床を作成後、嚥下の評価をVFにて行えたので、その結果を報告する。
124	福岡 たちばな診療所歯科	吉田 可奈子	歯科衛生士	II	○		必要なのは理解 ～障がい者を知ろう～	たちばな診療所歯科では、全体の約1割の障がい者が来院されます。その特徴は知的障がい・自閉症・ダウン症・脳性麻痺・小児麻痺など若年者であることです。若い障がいの方々は習慣と訓練による習熟の可能性が高いと考えていますが、一方、症状の進行するケースでは将来を見据えた治療・予防・指導が必要であると考えます。障がい者歯科の経験が浅いスタッフが患者さんと一緒に少しづつ改善し、前進してきた経過を報告します。
125	福岡 千鳥橋病院附属歯科診療所	星宮 光恵	歯科医師	I	○		ペリオドンでアナフィラキシーショックを起こした一例	歯髓まで進行していたカリエスに対しペリオドン適量を付着させた綿球を根管内に挿入し仮封した患者が、帰宅後尋麻疹を発症、その後血圧低下、口唇チアノーゼなどショック症状が出現し救急外来受診後入院となった例を報告する。
126	福岡 たたらリハビリテーション病院歯科	菊川 勇志	歯科医師	II	○		病院(病棟)、施設との連携強化の取り組み	たたらリハビリテーション病院歯科では、病院(病棟)や隣接する特別養護老人ホームとの連携を強めながら、安全・安心・信頼の歯科医療を進めている。しかしながらその実態は常に危険と隣り合わせで、実際トラブルも発生している。この間発生したトラブルをバネに、連携を強化した経験を発表する。
127	福岡 米の山歯科診療所	南郷 寿	歯科医師	III	○		歯冠破折歯牙に対し、歯牙挺出させて補綴した一例	事故などで歯牙が破折し、残存歯質が歯肉縁下3ミリを越えると補綴不可能となり抜歯適応となる。しかし、隣接歯が健全歯であつたり、まだ年齢が若い場合、将来を考えると抜歯してブリッジや可撤床義歯にはできるだけしたくない。そこで今回は、歯肉縁下にある歯根を小矯正で挺出させ補綴した例をあげ、その利点・欠点を考察してみたい。
128	熊本 くわみず病院歯科	久保田 千穂	歯科衛生士	III?	○			
129	大分 けんせい歯科クリニック		歯科医師		○		臨床研修成功に向けた診療所増改築	けんせい歯科では2011年、2013年の臨床研修(協力型)の実施を経て、2015年度より管理型施設の資格を得ることができます。今後も継続的に研修医を受け入れたいと考えていますが後継者育成に取り組む上ではユニットバランスに配慮することが必要です。臨床研修と経営の両方を成功させることも目的に増改築を行いますのでこのとりくみについてご報告します。
130	鹿児島 谷山生協クリニック	瀬戸山 千秋	歯科医師		○		経営改善への取り組みについて	鹿児島の2歯科院所は、この間経営ランクE郡が続いており九沖地協の中でも最も経営困難な状況院所です。2012年6月全国民医連歯科部現地懇談会を受け、経営改善に取り組んでいる途中です。その途中経過を報告します。
131	沖縄 中部協同病院				○			今回はじめて歯科健康教室「わくわく歯科のお話と体験会」を行う事ができました。又、以前より当院の地域相談センターより依頼を受けて「口腔機能向上を目的とした「歯のがんじゅう教室」を継続しておこなっていますので、合わせて報告します。
132	沖縄 中部協同病院	大城 工	歯科医師	V	○		仮 無料低額診療事業患者の治療を通じて感じたこと	無料低額診療事業へ取り組む中で、印象に残った患者の治療前と治療後の患者の心境の変化を口腔写真(治療前・治療後)を交えながら症例報告する形を取りたい。